日本学術会議第74回総会報告

第11期の最初の総会に当たる第74回総会は，1月23～25日の3日間，日本学術会議講堂で開かれた．

総会は，規定に従い事務局長の議長代行のもとに開会され，まず沖縄県在住の科学者の代表として琉球大学法文学部教授米須興文氏及び琉球大学農学部教授赤司景氏がオブザーバーとして参加されている旨の紹介がなされた．

ついで会長選出に移ったが，会員から従来の方法では判断の資料が不足しているのでいったん休憩し，部会を開催して候補者についての情報の交換をしてはどうかとの意見が出され，これについて活発な議論が行われたが，結局従来の方法で行うことになった．

投票の結果，会長に伏見康治会員（第4部）が選ばれた．

就任の挨拶に立った伏見新会長は，(1) 全会員の英知を結集するため総会主義を貫く，(2) 重点的に問題をしぼって審議を行う，(3) 当面の仕事に追われて本質的な問題を見失なうようなことはしない，(4) 国際的な学術交流・協力にかかわる活動の強化，とりわけ発展途上国とのそれに重点を置く，など学術会議の今後の活動について会長としての抱負を述べた．

ついで，伏見会長が議長席につき副会長の選挙に入り，人文科学部門から岡倉古志郎会員（第2部），自然科学部門から名取禮二会員（第7部）が選出され，両副会長からも挨拶があり，第1日目の日程を終えた．

午後の各部会では，部長，副部長，幹事の選出等が行われた．

総会第2日目には，まず，越智勇一前会長が第10期の総括的な報告を行った後，引き続いての退任の挨拶の中で，我国の科学の発展にとって本会議の果すべき役割の重要さを強調した．

ついで運営審議会付置小委員会の活動報告が行われた．特に高橋前副会長（財務委員会委員長）からは，本会議の予算の現状について詳細な説明があった．また伏見前副会長による ICSU 小委員会の報告では 1979 年に開催される UNCSTED（国連開発のための科学・技術会議）にどう対処すべきかという問題提起があった．この後，各部，各委員会等から第10期の活動のまとめや第11期への引継ぎ事項に関する詳細な報告があった．

諸報告の終了後，短時間ではあったが第11期の活動計画を策定するための手続き等について自由な討論を行った．討論は最初の総会にふさわしく，終始活発な質疑応答が行われ，予定を延長して午後6時すぎに終了した．

総会第3日目には，「第11期の活動に関する基本計画の策定並びにそれに伴う各種委員会の当面の措置について（申合せ）」についての審議が行われた．本議案は，第11期の本会議の基本的な活動計画を策定するため，4月総会までの3か月間，いかにして全会員が英知を結集して審議を行うか，ということに関する内容のものである．そこで，この議案については，岡倉副会長からきわめて詳細な提案趣旨の説明があり，慎重審議の上，第11期活動計画委員会を設置することを主要内容とするこの提案を全会一致で採決した．

この委員会は，（ア）会長及び副会長，（イ）各部の役員の中から選ばれた者各1名，（ウ）各部の会員の中から選ばれた者各3名（新会員1名以上を含む）で構成するものとし，また各部にもこれに対応する小委員会を設け緊密な連絡をとりながら作業を進めることとなった．

このため第75回総会までは，国際協力事業特別委員会を除く特別委員会はもちろん，常置委員会も発足しないことになったので，この期間における臨時の措置として，常置委員会が継続して作業する必要がある場合及び第10期に設置された特別委員会が緊急に残務を処理する必要が生じた場合には，会長が第10期の委員だった現会員及びその他の会員をもって構成される臨時委員会を召集する等の手段によって処理することが決められた．

さらに「科学技術会議日本学術会議連絡部会専門委員の推薦について」の議題が提案され，これについては両副会長及び各部より1名ずつを選出し推薦することとした．ついで，(1) 地方区世話人を各地方区選出会員の協議によって選出すること，(2) 日本学術会議選挙管理委員候補者の推薦を行うこと，及び第75回総会の日程を決めた．

議事終了後，伏見議長から，第11期の日本学術会議の出発に当って，日本学術会議のあり方等について会員が自由に意見を述べるよう求めたのに対して，短時間ではあったが活発な意見が表明された後，総会を終了した．

なお，今総会の出席率は第1日目から第3日目まで，それぞれ 96%，94%，95% であった．

（日本学術会議広報委員会）